

【福部地域】 地域振興会議を振り返って

項目	意見
組織の形態（会議の回数、委員の人数、委員構成など）について	<p>【会議の回数】 6回とか上限を決めて各地域の実情に応じて柔軟に対応できるようにした方がいい。</p> <p>【委員の人数】 現行12名は協議しやすい数だと思うが、平日昼間の会議に参加できる人は限られてくると思うので、地域の実情に合わせて柔軟な人数構成でも良いと思う。</p> <p>【委員の構成】 現行のメンバーは地域の実情に合った良い構成となっていると思う。</p>
会議で取り扱う議題・内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくりの構想等の進捗管理。 ・全市共通の課題や取り組みについて担当課から説明を受け情報共有していただくことも必要であるが、もっと地域の課題・問題に取り組める会であるべきと考える。
地域振興会議の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・福部町まちづくり構想を策定した。 ・新市域振興ビジョンの進捗管理の一役を担った。 ・ICの要望や福部駅の活性化、空き家対策等の地域振興に繋がる協議の場となった。
地域振興会議の課題	<p>・この会自体に予算が無く、地域振興についての議論をしても即実行に繋がっていない状況を歯がゆく思うが、この会できっかけを作り、実働部隊となる地元の団体に思いを繋げていく役割は担っていると考える。また、引き続き新市域振興ビジョン以外にも移住定住や空家対策などの地域振興にも重点を置く必要がある。</p>

地域振興会議を振り返って

参考・記入例

項目	意見
組織の形態（会議の回数、委員の人数、委員構成など）について	<p>【会議の回数】ある程度決まった時期に全支所で開催されることで、本庁各課からの情報提供という面では便利であるが、本来議論すべき内容の議題がない場合や、集中して議論したい事案がある場合があり、回数・時期は、支所ごとに柔軟に変更できる方がよい。（例：視察を含めて上限6回）</p> <p>【委員の人数】現行12名でも妥当な人数だが、公募委員の欠員補充に苦慮する等、委員選定が難しくなっている面もあり、10名程度としてもよい。</p> <p>【委員の構成】新たな会議体を持つのであれば、地域の実情に合わせた柔軟な委員構成が可能となることが好ましい。</p> <p>【その他】新たな会議体を持つのであれば、条例での位置づけまでは不要ではないか。</p>
会議で取り扱う議題・内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくり構想等の進捗管理 ・地域課題の解決に向けた意見集約、意見交換の場 ・地域の課題解決につなげるための先進地視察 ・市の重要施策・新規施策・事業の内容及び進捗状況説明
地域振興会議の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域まちづくり構想や、基本計画、実施計画等を策定（検討）することができ、地域振興につながった。 ・新市域振興ビジョン進捗管理の一役を担っていただいた。 ・地域課題の解決に向けた、意見集約の場となり、地域の様々な役職にある委員が情報共有及び協議・検討を行うことにより、地域振興やまちづくりの取組に活かしていくことができた。（小さな拠点形成、鳥獣被害対策、庁舎改修等）
地域振興会議の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体ではなく、地区の課題に偏る傾向があった。 ・議題が、市からの施策・事業の説明や意見集約に終始するときがあった。 ・全市的な課題で意見を求められても、支所エリアの枠を越えた議論が深まりにくい。 ・市政全体にかかわる内容で、委員には実感がわかないものもあり、これは、パブリックコメントなどで十分なのではないか。 ・本庁各課からの報告・情報提供は、自治会長会でも十分ではないか。 ・会議で取り扱う議題のほとんどが事務局からの提案であり、委員からの積極的な発案等が見られなかった。 ・市長からの諮問に応じ、審議し、答申することはなかった。 ・所掌事項として「対象区域の振興に関する事業について調査及び審議」とあるが、現行の回数では「調査及び審議」するには少ないのではないか。また、委員の方がその議論を進めるにも漠然としているため、議論の切り口を提起した上で、その議論を深めることが必要である。